

授業科目	言語発達障害Ⅲ（評価法－基礎）				
担当者	大谷多加志・工藤芳幸・赤壁省吾				（オムニバス）
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 授業目的・内容

- ・対象者の発達状態を適切に理解することは、小児の言語治療を行う上で非常に重要なことである。本講では小児の発達評価に最もよく用いられる検査のひとつである新版 K 式発達検査2020の実施・評価を学習することを通して、小児の発達アセスメントにおける基礎的理解を深めていく（大谷）。
- ・LC スケール（言語・コミュニケーション発達スケール）を取り挙げ、言語理解・言語表出・コミュニケーションの発達アセスメントの方法を学ぶ。また、検査結果を統合・解釈し、指導目標を設定するプロセスを習得する（工藤）。
- ・乳幼児期早期の言葉発達が遅れている場合、私たちの仕事は保護者支援から始まり、他児との関わりやさまざまなコミュニケーションを主とした直接的な支援に携わっていることが多い。また、最近では放課後等デイなどの障害福祉分野に所属する ST では学齢期以降の介入も必要である。読み書き計算など学習面への支援や自身の発達特性を理解をする自己理解への支援が必要とされる。いずれは就労に向くプロセスへの支援についても理解し、乳幼児期から成人期までのライフステージ上での課題を整理し、発達障害のコミュニケーション上での課題を切り口にして理解を深める（赤壁）。

■ 到達目標

- ・小児の発達アセスメントに関する基礎知識を身につける
- ・新版 K 式発達検査2020の概要と幼児期の検査項目の実施・評価の方法を理解する（大谷）。
- ・小児の言語・コミュニケーション発達に関する評価法および指導目標設定についての基礎知識の習得（工藤）。
- ・発達障害の特性やライフステージにおける変化を捉え、地域支援のあり方について知識を深める（赤壁）
- ・障害福祉の障害児通所支援サービス・就労サービスを理解し説明できるようになる（赤壁）

■ 授業計画

- 第1回 発達アセスメントの意義と留意点（大谷）
- 第2回 新版 K 式発達検査2020の概要（大谷）
- 第3回 検査の実施手順と評価 乳児（大谷）
- 第4回 検査の実施手順と評価 乳児～幼児（大谷）
- 第5回 検査の実施手順と評価 幼児①（大谷）
- 第6回 検査の実施手順と評価 幼児②（大谷）
- 第7回 検査の得点化、発達年齢・発達指数の算出（大谷）
- 第8回 検査結果にもとづく発達評価と助言、支援（大谷）
- 第9回 事例から考える発達評価・発達支援（大谷）
- 第10回 LC スケール（言語・コミュニケーション発達スケール）の概要（工藤）
- 第11回 LC スケールの実施手順と評価① 言語表出・言語理解領域（工藤）
- 第12回 LC スケールの実施手順と評価② コミュニケーション領域（工藤）
- 第13回 検査結果の統合と解釈および指導目標設定②（工藤）
- 第14回 発達障害の特性理解と関わりについて（赤壁）
- 第15回 障害福祉サービスでの言語聴覚士の働きについて（赤壁）

■ 評価方法

- 大谷担当、工藤担当、赤壁担当を合わせて100%で評価する。
- ・第1回～9回、大谷担当分は、授業後のショートレポートによって評価する。
 - ・第10～13回、工藤担当分は、講義時間内に実施する提出課題により評価する。
 - ・第14,15回、赤壁担当分は授業後のレポートにて評価をする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

必要に応じて講義中に指示をする。

■ 教科書

書名：標準言語聴覚障害学 言語発達障害 第3版

著者名：藤田郁代 監修

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：言語・コミュニケーション発達の理解と支援 :LC スケールを活用したアプローチ

著者名：大伴潔、林安紀子、橋本創一

出版社：学苑社

書名：新版 K 式発達検査2020実施手引書

出版社：京都国際社会福祉センター

■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。